

# 防災分野における衛星の活用について

## 活用分野

災害予防、発生時における衛星の活用分野については、主に迅速な状況把握(観測分野)と通常の通信手段の代替(通信分野)が挙げられる。

## 現状

### ➤ 内閣府における衛星分野との関わり

(観測分野)

JAXAと内閣府との間において「人工衛星等を用いた災害に関する情報提供協力に係る取決め」を締結しているほか、「大規模災害衛星画像解析支援チーム」にも参画している。

(通信分野)

「準天頂衛星システム事業推進委員会防災分科会」に参画している。

### ➤ 衛星利用に伴いに求める機能

(観測分野)

- 観測頻度：特に発災後は刻一刻と状況が変化。リアルタイム性が必要。
- 解像度：状況が明確に理解できることが必要。草津白根山では火口が確認できず。

(通信分野)

- 既存通信の補完として、簡便に移行できることが望ましい。

### ➤ 今後について

衛星情報と地上系情報との組み合わせや、衛星通信機能がどう活用され得るのか等について、「災害情報ハブ」推進チーム(座長・あかま内閣府副大臣)の枠組みで議論開始予定。

- 今年度の検討を通じて、情報の所在、形式等の現状が明らかになるとともに、指定避難所や物資拠点の必要な情報項目が整理されるなど、**基本的な仕掛けが整ってきた**。
- 一方で、各情報のデータでの共有や、地方公共団体の協力による指定避難所等のデータベース化、状況の見える化や官民チームの質の向上など、**今年度の成果物を成長・発展させる必要がある**。
- また、中長期的課題としていた**宇宙技術やSNS情報、AI等の防災分野への活用も検討が必要**であり、こうした技術の活用についても重点テーマとして検討していく。

## 1. 次年度の重点テーマ案

- ① **ビッグデータの活用による被災者の避難動向把握**
  - ・ 推計精度の向上に向け、携帯電話の位置情報以外のビッグデータも含めて検討
- ② **指定避難所・物資集積拠点の施設情報整理**
  - ・ 地方公共団体の協力の下にデータベース化、発災時に共有が必要となる動的情報について整理
- ③ **ライフライン情報のデータ流通**
  - ・ データ流通に向けた課題や、流通のための方策を検討
- ④ **インフラ情報のデータ流通**
  - ・ データ流通に向けた課題や、流通のための方策を検討
- ⑤ **宇宙技術、SNS情報、AI等の活用方策の検討**
  - ・ 内閣府宇宙事務局、総務省その他の関係省庁と連携して、防災分野への活用方策について検討

※今年度の重点テーマ⑤「物資供給情報の共有」は、今年度の品目リスト等の検討を踏まえ、市町村までシステム連携できるよう引き続き検討する。

## 2. 状況の見える化の試行

- **所管省庁や官民の枠を超えた情報集約の有益性**を明らかにするための見える化を試行する。
- このため、重点テーマの検討結果の反映や、情報カタログの充実、民間情報の追加等により、**見える化できる情報項目の増大**を図る。

## 3. 官民チーム（仮称）の試行

- 訓練や実際の災害での活動を通じて、**チームの役割・位置づけ、効果的に活動するための課題、メンバー構成その他の課題について検討**する。

## 4. 情報カタログの質の向上

- 重点テーマの検討結果の反映による**情報カタログの質の向上**を図る。
- また、重点テーマ以外の情報についても充実に努める。